

児童館における健全育成活動等 開発事業報告書（令和5年度）

令和6年4月

盛岡市

目次

- 1 盛岡市の児童館・児童センターの現状
 - (1) 児童館・児童センター設置状況
 - (2) 児童館・児童センター利用状況
- 2 児童館における健全育成活動等開発事業取組
 - (1) 企画・推進委員会の設置
 - (2) 企画・推進員会の開催状況
 - (3) 事業実施状況
- 3 分析と考察
 - (1) 事業実施計画書の目標値・実績値
 - (2) アンケート調査結果からの分析・考察
- 4 成果の公表実績・計画

1 盛岡市の児童館・児童センターの現状

1 盛岡市の児童館・児童センターの現状

(1) 児童館・児童センター設置状況

- 児童館・児童センターの設置状況

市内の小学校区(全41校)に1つ児童館・児童センターを設置する方針で整備を進めており、令和5年4月現在、41館1分室が整備されている。

- 児童館・児童センターの管理運営

地域名	施設数	指定管理者
盛岡地域・都南地域	36館1分室	社会福祉法人盛岡市社会福祉事業団
玉山地域	5館	社会福祉法人盛岡市社会福祉協議会

1 盛岡市の児童館・児童センターの現状

(2) 児童館・児童センター利用状況

令和5年5月1日現在

	施設数	登録児童数	障がい(疑い含む)児童数	登録児童数に対する障がい児の割合
盛岡地域・都南地域	36館1分室	3,865人	256人	6.6%
玉山地域	5館	269人	28人	10.4%
盛岡市全域	41館1分室	4,134	284	6.9%

(出典:令和5年5月実施の児童数調査結果から抜粋)

【課題】

多様な発達障がいをもつ児童の利用が年々増えており、現在の職員配置基準(児童厚生員2名)では、健常児と並行しての支援に支障が生じており、施設職員の加配を求める声もあがっていた。

→ 職員の対応力向上、不安軽減のため、専門的知識を有する職員の巡回訪問を試験的に実施。

2 児童館における健全育成活動等開発事業取組

2 児童館における健全育成活動等開発事業取組

(1) 企画・推進委員会の設置

〈企画・推進委員会 委員構成〉

所 属	職 名	氏 名
岩手大学大学院教育学研究科	准教授	委員長 佐々木 全
特定非営利活動法人六等星	理事長	齋藤 真也
社会福祉法人盛岡市社会福祉事業団事務局総務課	企画総務係長	工藤 彰子
社会福祉法人盛岡市社会福祉協議会玉山支所	所長	玉山 正彦
盛岡市教育委員会学校教育課	指導主事	熊谷 優子
盛岡市保健福祉部障がい福祉課	副主幹兼相談認定係長	菅原 雅宏
盛岡市子ども未来部子ども家庭総合支援センター	所長	昆 秀博
盛岡市子ども未来部子ども青少年課	課長	杉田 博信

2 児童館における健全育成活動等開発事業取組 (2) 企画・推進委員会の開催状況

	開催日	内容
第1回	令和5年8月30日(水)	・児童館の現状報告 ・事業説明、実施内容の検討
第2回	令和5年11月27日(月)	・施設職員アンケート実施検討 ・発達障がい児支援専門員活動報告
第3回	令和6年1月23日(火)	・施設職員アンケート結果報告 ・発達障がい児支援専門員活動報告
第4回	令和6年3月26日(火)	・事業の効果検証 ・事業実施報告

2 児童館における健全育成活動等開発事業取組

(3) 盛岡市発達障がい児受入支援事業施状況

【児童健全育成活動等開発事業のテーマ】

テーマ(特定)	障害児の受入推進や、その保護者等への相談支援
事業名	盛岡市発達障がい児受入支援事業
事業概要	児童館・児童センターにおいて、発達障がい児の受け入れや対応等に必要な専門的知識を有する発達障がい児支援専門員を配置(3名)し、児童館・児童センターを巡回して各施設の職員等への支援を行い、子どもの遊びや保護者等からの相談支援体制の充実を図る。

2 児童館における健全育成活動等開発事業取組

(3) 盛岡市発達障がい児受入支援事業施状況

発達障がい児支援専門員について	
配置人数	<ul style="list-style-type: none">・盛岡地域・都南地域(36館1分室) 2名・玉山地域(5館) 1名
雇用形態	<ul style="list-style-type: none">・非常勤(指定管理者が雇用)・パートタイム勤務 週30時間勤務(1日6時間×週5日(月曜日～金曜日))
業務内容	<ul style="list-style-type: none">・児童館・児童センターの巡回支援・企画・推進委員会への出席及び活動内容等の報告・児童厚生員等の施設職員等を対象とした研修会の開催

2 児童館における健全育成活動等開発事業取組

(3) 盛岡市発達障がい児受入支援事業実施状況

① 児童館・児童センターの巡回支援

ア 業務内容(1日の流れ)

- | | |
|---------------|--------------------|
| 10時00分～12時00分 | 前日の児童センター巡回訪問記録の作成 |
| 13時00分～ | 移動、当日の巡回訪問施設の児童の確認 |
| 14時30分～16時30分 | 児童センター巡回訪問 |
| 16時30分～17時00分 | 移動・訪問まとめ等 |

イ 児童センター巡回支援の流れ

- ・所長、児童厚生員と児童の様子等について情報交換と相談等
- ・児童の様子を観察(対象児童の観察、遊びを通した子どもたちとの交流)
- ・観察結果の共有等(疑問の確かめ、子ども的一面についての情報交換、共有等)

2 児童館における健全育成活動等開発事業取組

(3) 盛岡市発達障がい児受入支援事業実施状況

① 児童館・児童センターの巡回支援(相談実績)

	担当 施設数	相談回数	相談児童数	相談内容
盛岡地域・ 都南地域①	19施設	・訪問 81件 ・電話 6件 ・来所 4件	179人 (1施設平均9.4人)	・発達障がい関係 151人(延べ 601人) ・問題行動等関係 28人(延べ 115人)
盛岡地域・ 都南地域②	18施設	・訪問 74件	155人 (1施設平均8.6人)	・発達障がい関係 135人(延べ 553人) ・問題行動等関係 20人(延べ 82人)
玉山地域	5施設	・訪問 58件	29人 (1施設平均5.8人)	・発達障がい関係 29人(延べ 251人)
盛岡市全域	42施設	・訪問 213件 ・電話 6件 ・来所 4件	363人 (1施設平均8.6人)	・発達障がい関係 315人(延べ 1,405人) ・問題行動等関係 48人(延べ 197人)

2 児童館における健全育成活動等開発事業取組

(3) 盛岡市発達障がい児受入支援事業施状況

② 施設職員等を対象とした研修会の開催

【盛岡・都南地域】

- ・児童厚生員全体研修会 1回
- ・その他(施設内研修会) 2回



【玉山地域】

- ・施設職員全体研修 2回
- ・その他(施設内研修会) 1回



2 児童館における健全育成活動等開発事業取組

(3) 盛岡市発達障がい児受入支援事業施状況

③ 施設職員からの意見・要望(巡回訪問)

- ・客観的立場から問題に対する見解を指導いただける体制であることが大きなポイント(なくてはならないポイント)と強く感じる。
- ・発達障がい(疑い)児、グレーゾーンの子ども達と定型発達の子供達が共に過ごす施設であるため、専門員の巡回訪問は、有意義な事と感じているので今後も継続していただきたい。
- ・良かった所を教えてもらい自信につながった。これからも相談したい。もう少し長い時間訪問してもらいたい。
- ・児童に話しかけて一緒に遊んでいただき、子どもが喜んでいた。

(出典:令和5年12月実施の施設職員アンケート調査結果の自由記述欄から抜粋)

2 児童館における健全育成活動等開発事業取組

(3) 盛岡市発達障がい児受入支援事業施状況

③ 施設職員からの意見・要望(研修)

- ・定期的に代替で勤務するパート職員にも常勤職員と一緒に学ぶ機会を設けていただけただけなので職員間の共通理解に大変役に立った。
- ・勤務に対応できる様に研修会で学ぶ機会が増えると自信が持てると思う。研修会の機会を増やしてほしい。
- ・定期的にこのような機会があれば、自身の知識をアップデートすべく、また経験の乏しさを補うべく参加したい。
- ・研修内容は各センターの事例を出しての対応策等を話してほしい。

(出典:令和5年12月実施の施設職員アンケート調査結果の自由記述欄から抜粋)

3 分析と考察

3 分析と考察

(1) 事業実施計画書の目標値・実績値

(1) 保護者や施設職員からの相談受付件数

目標値：受付件数の全施設合計150件以上

実績値：223件 ⇒ 達成

(2) 発達障がい児の受け入れ体制の充実

目標値：アンケートで肯定的な回答(※)の割合90%以上

実績値：受け入れ(対応)について不安が軽減した → 90.3% ⇒ 達成

本事業を通じて、自身の対応力が向上した → 92.8% ⇒ 達成

アンケート結果の分析・考察は次のとおり

(※全回答から否定的な回答(「2 あまりあてはまらない」「1 全くあてはまらない」)をのぞく。

3 分析と考察

(1) 事業実施計画書の目標値・実績値

アンケート調査の概要	
目的	事業実施状況の評価として、利用者(施設職員)の満足度を把握するとともに、課題や改善点を明らかにするために実施。
対象者	日常業務において児童と接する施設職員(回答:207名)
実施期間	令和5年12月1日(金)～令和5年12月28日(木)
その他	アンケートは、「5 よくあてはまる」「4 ややあてはまる」「3 どちらともいえない」「2 あまりあてはまらない」「1 全くあてはまらない」の5段階の選択肢を用意し、満足度調査を実施。

3 分析と考察

(2) アンケート調査結果からの分析・考察

〈不安の軽減(①)を目的変数とした場合における各設問内容の平均値、相関係数、改善度指数〉

設問内容	平均値	相関係数	改善度指数
② 専門員による巡回訪問（相談）によって、発達障がい児（疑い含む）に対する理解が深まった。	3.89	0.73	4.31
③ 専門員による巡回訪問（相談）によって、発達障がい児（疑い含む）への対応策が得られた。	3.67	0.74	11.71
④ 専門員による巡回訪問（相談）の頻度は必要十分だった。	3.78	0.50	(2.31)
⑤ 専門員による巡回訪問（相談）の対応時間は必要十分だった。	4.03	0.48	(10.78)
⑥ 専門員による研修によって、発達障がい児（疑い含む）に対する理解が深まった。	4.03	0.56	(6.40)
⑦ 専門員による研修によって、発達障がい児（疑い含む）への対応策が得られた。	3.85	0.52	(3.57)
⑧ 専門員による研修の頻度は必要十分だった。	3.56	0.44	1.05
⑨ 専門員による研修の開催時間は必要十分だった。	3.55	0.37	(1.02)
⑩ 専門員による随時の相談対応は有効だった。	3.60	0.45	0.69
⑪ 本事業を通じて、自身の対応力が向上した。	3.61	0.57	5.97
	3.76	0.54	(0.03)

3 分析と考察

(2) アンケート調査結果からの分析・考察

〈不安の軽減(①)を目的変数とした場合における各設問内容の平均値、相関係数、改善度指数〉

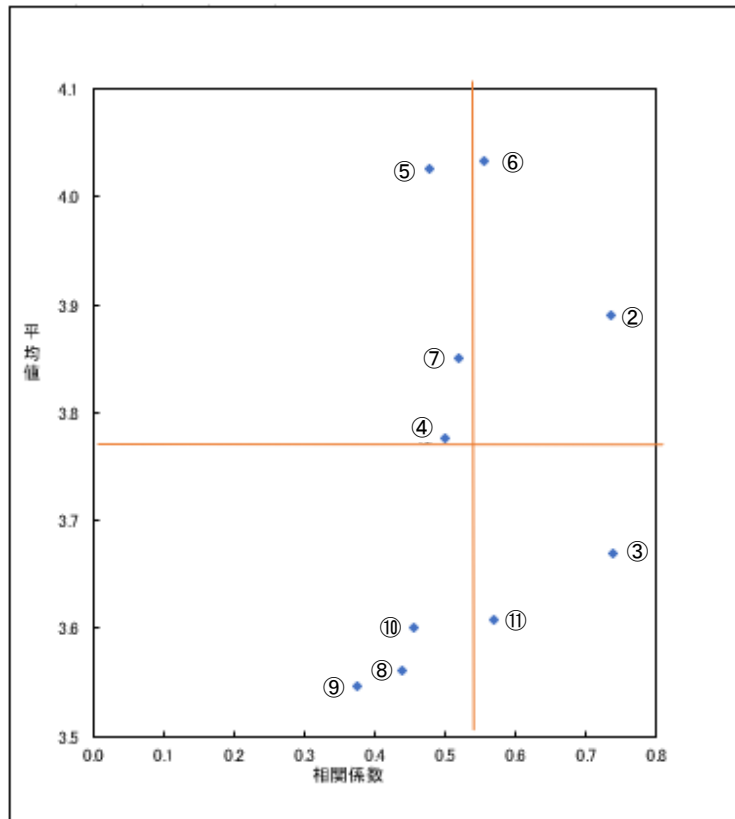


図1 不安の軽減を目的変数としたCSグラフ

CS分析の解釈

(解釈)

不安の軽減(①)を目的変数とした場合

	成果と課題の内容	設問項目番号	備考
成果	巡回訪問(相談)による対象児理解の深まり	②	改善の余地あり
	研修による対象児理解の深まり	⑥	* 必要十分
課題	巡回訪問(相談)による対象児へ対応策の獲得	③	★ 優先的改善
	自身の対応力向上	⑪	○

(※) 備考欄に示す記号(*、★、○)は、後に示す考察のコメントに対応する箇所である。

3 分析と考察

(2) アンケート調査結果からの分析・考察

〈対応力の向上(⑪)を目的変数とした場合における各設問内容の平均値、相関係数、改善度指数〉

設問内容	平均値	相関係数	改善度指数
① 専門員による巡回訪問（相談）によって、発達障がい児（疑い含む）の受け入れ（対応）についての不安が軽減した。	3.60	0.57	6.22
② 専門員による巡回訪問（相談）によって、発達障がい児（疑い含む）に対する理解が深まった。	3.89	0.48	(11.66)
③ 専門員による巡回訪問（相談）によって、発達障がい児（疑い含む）への対応策が得られた。	3.67	0.55	2.15
④ 専門員による巡回訪問（相談）の頻度は必要十分だった。	3.78	0.50	(4.56)
⑤ 専門員による巡回訪問（相談）の対応時間は必要十分だった。	4.03	0.52	(11.19)
⑥ 専門員による研修によって、発達障がい児（疑い含む）に対する理解が深まった。	4.03	0.60	(3.32)
⑦ 専門員による研修によって、発達障がい児（疑い含む）への対応策が得られた。	3.85	0.64	4.32
⑧ 専門員による研修の頻度は必要十分だった。	3.56	0.48	(0.69)
⑨ 専門員による研修の開催時間は必要十分だった。	3.55	0.53	3.38
⑩ 専門員による随時の相談対応は有効だった。	3.60	0.65	14.44
	3.76	0.55	(0.09)

3 分析と考察

(2) アンケート調査結果からの分析・考察

〈対応力の向上(⑩)を目的変数とした場合における各設問内容の平均値、相関係数、改善度指数〉

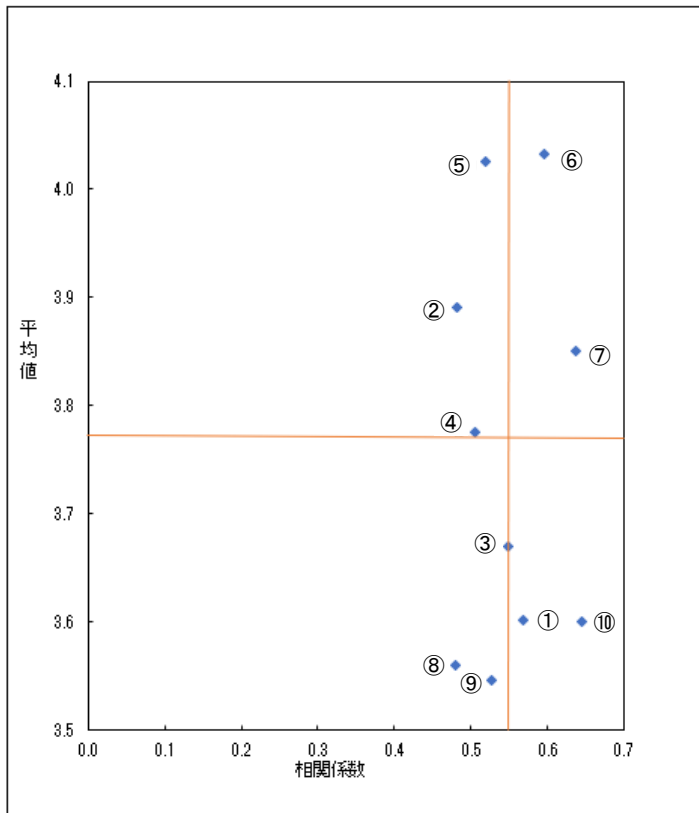


図2 対応力の向上を目的変数としたCSグラフ

CS分析の解釈

対応力の向上(⑩)を目的変数とした場合			
	成果と課題の内容	設問項目番号	備考
成果	研修による対象児理解の深まり	⑥	* 必要十分
	研修による対象児への対応策の獲得	⑦	* 改善の余地あり
課題	随時の相談対応	⑩	# 優先的改善
	対応における不安軽減	①	○
	巡回訪問(相談)による対象児へ対応策の獲得	③	★

(※) 備考欄に示す記号(*、#、○、★)は、後に示す考察のコメントに対応する箇所である。

3 分析と考察

(2) アンケート調査結果からの分析・考察

考察（CS分析と自由記述の対照から）	自由記述における課題としての認知にかかるラベル(言及数)
<p>(1) 本事業の目的の実現のためにも、職員の対応力の向上は必要であり、それが、職員の不安の軽減にもつながる(○)。</p> <p>このことについて、〈施設職員の苦労に対する理解の求め〉は、職務の実態並びに対応力向上と不安軽減の必要性が示唆されている。また、〈施設における人員の加配の求め〉は、現状において実現可能性が低く、それゆえ、対応力の向上と不安の軽減を目指すことで対処しようとする本事業の趣旨の確認の必要性が示唆されている。</p> <p>このために有益であるのは、対象児理解の深まりと、対応策の獲得である。</p> <p>このことについて、これらの実現要件である本事業の主力たる〈専門員の専門性担保の求め〉と、前者にかかわり、〈対象児の認識の齟齬〉の解消という必要性が示唆されている。</p>	<p>〈施設職員の苦労に対する理解の求め〉(5) <small>(定義)対象児への対応に関する施設職員の日常的な職務状況への理解を求める意見</small></p> <p>〈施設における人員の加配の求め〉(3) <small>(定義)対象児への対応の要件として、そもそもの施設における根本的な人員配置の改善を求める意見</small></p> <p>〈専門員の専門性担保の求め〉(4) <small>(定義)専門員に対して、その資質能力として、発達障害である対象児に対する知識や対応策の提供を求める意見</small></p> <p>〈対象児の認識の齟齬〉(1) <small>(定義)対象児の操作的定義の認識に齟齬があることを示唆する意見</small></p>

3 分析と考察

(2) アンケート調査結果からの分析・考察

考察（CS分析と自由記述の対照から）	自由記述における課題としての認知にかかるラベル(言及数)
<p>(2) 対象児理解の深まりと対応策の獲得には、巡回訪問(相談)と研修いずれの手立ても有益である。</p> <p>このことについて、〈巡回訪問(相談)の有用性〉〈研修の有用性〉を根拠として〈専門員に対する信頼と期待〉が得られている。これに基づき巡回訪問(相談)に関して、〈訪問時期・時間の最適化の求め〉〈訪問回数の増加の求め〉、研修に関して、〈研修の回数及び内容の求め〉がそれぞれ挙げられている。</p>	<p>〈専門員に対する信頼と期待〉(16) (定義)専門員に対して、その業務内容が有益であることの実感に基づき、信頼と期待が寄せられていることを示唆する意見。</p>
	<p>〈巡回訪問(相談)の有用性〉(6) (定義)巡回訪問(相談)の有用性の認知に基づく賛意と事業継続を求める意見</p>
	<p>〈研修の有用性〉(4) (定義)研修の機会や内容の有用性の認知に基づく賛意と事業継続を求める意見</p>
	<p>〈訪問時期・時間の最適化の求め〉(9) (定義)専門員の訪問時期や時間について、施設のニーズに応じた実利的な調整を求める意見</p>
	<p>〈訪問回数の増加の求め〉(5) (定義)専門員の訪問回数の増加を求める意見</p>
	<p>〈研修の回数及び内容の求め〉(3) (定義)研修の回数の増加及びその内容を求める意見</p>

3 分析と考察

(2) アンケート調査結果からの分析・考察

考察（CS分析と自由記述の対照から）	自由記述における課題としての認知にかかるラベル(言及数)
<p>ただし、対応策の獲得に関して、巡回訪問(相談)は改善が急務であり(★)、研修にも改善の余地がある(*)。</p>	<p>＜具体的な手立て提供の求め＞(6) (定義)対象児への対応策としての具体的な内容の提供を求める意見</p>
<p>このことについて、＜具体的な手立て提供の求め＞＜実践事例の情報提供についての求め＞が挙げられている。</p>	<p>＜実践事例の情報提供についての求め＞(4) (定義)対象児への対応策を検討する上で、具体的な参考情報としての実践事例の提供を求める意見</p>

3 分析と考察

(2) アンケート調査結果からの分析・考察

考察（CS分析と自由記述の対照から）	自由記述における課題としての認知にかかるラベル(言及数)
<p>(3) 対応力向上のためには、巡回訪問(相談)における随時の相談対応の充実が急務であった。(＃)</p> <p>このことについて、施設と学校間での連携推進としての新規業務内容の確立を目指した施設と学校間の仲介機能等本事業拡充の求めがあげられている。また、施設と専門員間での連携推進としての既存業務内容の質的向上をめざした施設と専門員間の情報交換の最適化の求めが挙げられている。</p>	<p>＜施設と学校間の仲介機能等本事業拡充の求め＞(4) (定義)施設と学校間の連携を促進するなど、本事業の機能拡充を求める意見</p> <p>＜施設と専門員間の情報交換の最適化の求め＞(3) (定義)施設と専門員の連携を促進するための実利的な調整を求める意見</p>

3 分析と考察

(2) アンケート調査結果からの分析・考察

〈分析・考察まとめ〉

- 約半年間の事業期間であったが、支援専門員による巡回訪問(相談支援)や研修会の実施は、職員の対応力の向上や不安軽減に貢献しており、発達障がい児の受入体制を向上させるために有効であった。
- 巡回訪問時以外の随時の相談対応や、施設のニーズに応じた実利的な巡回訪問を希望する声があった。
 - 電話相談での対応や、平日以外の土曜日など施設のニーズに応じた巡回訪問を実施した。土曜日は通常より児童数が少なく、通常の巡回訪問よりも長時間の相談支援ができた。

3 分析と考察

(2) アンケート調査結果からの分析・考察

〈分析・考察まとめ〉

- ・ 巡回訪問や研修などにおいて、具体的な手立てや実践事例の情報提供を望む声もあったことから、研修会でのグループワークや、巡回訪問時において事例紹介などを行うことで、より効果が期待できる。
- ・ 発達障がい児支援専門員への信頼や期待から、事業の継続を望む声や、環境の変化が大きい4月の巡回訪問を希望する声が多くあったことから、効果を検証しながら継続して実施していく必要があると考える。
- ・ 発達障がい児への包括的な支援に資するため、情報共有などにより児童館・児童センターと学校間の連携促進が必要である。
 - 教育委員会の了承を得て、盛岡市子ども未来部子ども青少年課が小学校の校長・園長会議(令和6年2月16日)に出席して依頼した。

4 成果の公表実績・計画

4 成果の公表実績・計画

(1) 当該事業における成果の公表について

- ・事業終了後、本市ホームページにおいて公表を行う。
- ・児童館・児童センターの指定管理者あて、成果物(事業報告書)の配布を行う。